

第 1511 回 例会記録 2025 年 10 月 24 日 (金) S.A.A. 委員長 鈴木憲治

【開会点鐘】

木村良三 会長

【S.A.A】

鈴木昭弘 副委員長

【例会場】

ホテルモリノ

【ソング】

ロータリーソング『四つのテスト』

【お客様ご紹介】

木村良三 会長

◆堀井 裕史 様 川崎市環境局 多摩生活環境事業所
業務第2担当 係長

◆平出 幸士 様 同主任

◆〈取材〉堀 智恵 様 (株)タウンニュース社 川崎支社

【会長報告】 木村良三 会長

1. ガバナー事務所より、



○ガバナー公式訪問時のクラブ対応への
感謝とお礼状が届いております。

○2026 ロータリー国際大会(台北)のご案内が届いております。

2026 年 6 月 13 日～17 日 台湾台北

○第 2 回リーダーシップ研究会の再案内が届いております。

10 月 26 日(日) 聖光学院 対面開催

○横浜南ローターアクトクラブより、12 月例会『55 周年記念
例会』のご案内が届いております。

12 月 20 日(土) 17:30～20:30 UNION HARBOR

2. “社会を明るくする運動”麻生区推進委員会より、

『フロンターレと築く明るい麻生区こどもサッカー教室』
開催のご案内が届いております。

12 月 6 日(土) 8:15～11:30 ※荒天(こうてん)以外
決行 川崎フロンターレ麻生グランド

【幹事報告】 宇津木茂夫 幹事



◆例会変更 *川崎西北RC ・11/6(木)休会

・11/8(木)移動例会 地区大会

・12/17(木)年末クリスマス家族会 ・2026/1/15(木)新年例会



*川崎高津RC ・11/6(木)⇒11/8(土)移動例会『地区大会』

・11/20(木)⇒11/22(土)移動例会 地区補助金活動

「和～るどびーす」橋公園

*川崎高津南RC ・12/1(月)年次総会 ・12/8(月)⇒12/19(金)

移動例会 川崎西RC60 周年記念式典に参加

・12/15(月)例会なし ・12/22(月)移動例会 年末家族会 エクセルホテル東急二子玉川 ・12/29(月)例会なし *横浜南RC

【出席委員会】

鈴木眞一 委員長

例会	会員	出席	欠席	修正	出席率
1511 回	25	15	10		60%
1510 回	25	21	4	1	88%
1509 回	25	16	9	5	84%

【委員会寄付】

委員会	第 1511 回(件数)	合 計
ニコニコ委員会	14 件	¥ 14,000

【ニコニコ委員会 メッセージ】

鈴木昭弘 委員長

◇木村良三会長【本日は清掃作業と川崎市のゴミ出し新ルールのお話があります】

◇鈴木昭弘会員【本日の清掃作業宜しくお願い致します】

◇長瀬敏之会員【さむいですね】

◇宇津木茂夫幹事 ◇碓井美枝子会員 ◇梅澤馨会員

第 1512 回例会 11 月 7 日(金)・8 日(土) 地区大会

パシフィコ横浜

第 1513 回例会 11 月 14 日(金) 指名委員会発表、他

ホテルモリノ

第 1514 回例会 11 月 21 日(金) 招 聘 卓 話

ホテルモリノ



◇親松明会員 ◇佐々木範行会員 ◇志村幸男会員
◇鈴木憲治会員 ◇鈴木眞一会員 ◇鈴木豊成会員
◇花輪孝一会員 ◇山下俊也会員

以上、ご協力ありがとうございました。

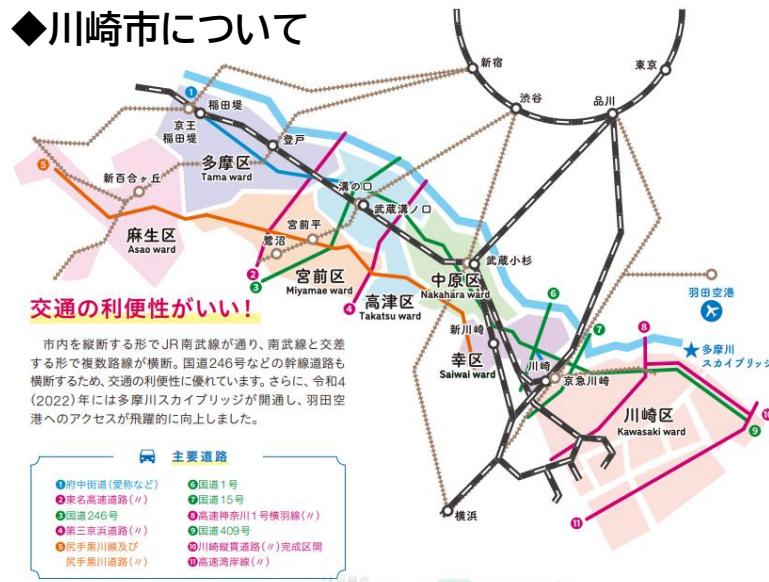
【卓話】 川崎市環境局 多摩生活環境事業所 堀井 裕史 様

「本日はこの後、新百合ヶ丘駅周辺の清掃活動をされるということで、この辺りは市内随一のきれいさと聞いております。クラブ及び地域の皆様のお蔭だと思います。本日は麻生区の廃棄物行政についてお話をさせていただきます。」



川崎市及び麻生区における廃棄物行政について

◆川崎市について



具体的な取組例

- 哺乳器ブランド
オーナー6社と連携した取組
- 味の素、キューピーとの取組
使用済みマヨネーズボトルの回収、など



プラスチック資源一括回収の取り組みについて



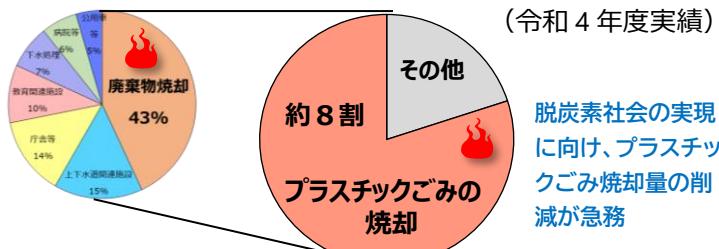
- 令和6年4月から一部地域でプラスチック資源一括回収を開始しました。

川崎市の温室効果ガス削減目標について

● 川崎市地球温暖化対策推進基本計画 2030年度目標	
市域全体目標	50%削減
市域 民生系目標	45%以上削減
産業系目標	50%以上削減
市役所 市役所目標	50%以上削減

(2013年度比)

● 川崎市役所が排出している温室効果ガスの内訳



一括回収の実施に向けた検討について

- かねてより市民の方々から「何がプラ容器の対象なのか分りにくい」という意見を頂いており、一括回収により分別率の向上が期待できること（現在約4割程度）
- プラスチック製容器包装と別の分別品目とした場合、収集体制の大幅な見直し（収集日の追加・既存の品目の曜日変更等）が必要となること
- プラスチック資源循環法の成立により、プラ製品も含めて一括で再商品化が可能となったこと 等

容器と製品の一括回収の実施に向けた検討等を開始

プラスチック資源の出し方について

- これまで収集していた「プラスチック製容器包装」と一緒に、新たに「プラスチック製品」も資源物として収集



※時計等の電気や電池で動くものや、ライター・注射器等の危険なものは対象外！

- プラスチック製容器包装とプラスチック資源は同じ袋に
- 現在のプラスチック製容器包装と同じ収集日、収集場所へ

一括回収に向けた市民広報について

- 一括回収実施前に市民説明会等を開催



プラスチック資源の収集が始まります

令和6年4月からは、「プラスチック製品」と「プラスチック製容器包装」を1つの袋で出してください。
川崎市多摩生活環境事業所は「プラスチック製容器包装」と同じまき、品目を「プラスチック資源」にリニューアル!
設備等への影響を軽減するため、まずはリサイクル施設に近い川崎区からスタートし、令和7年度に幸・中原区、令和8年度に市内全地域で収集を開始します。

Q どんなものが出来るの?
① 一升の容量で50cm未満のプラスチック製品や容器包装です。マークが付いててもOK!

Q 一部に金属等が付いているものは?
② 金属等を取り外せない場合は、そのまま出すことができます。

Q 全部普通ごみではダメ?
③ 家外の立て看板等に使われるプロトーや、肥料や園芸の原料となる肥料等に生まれ変わります。

Q 集めた資源はどうなるの?
④ ごみを資源に加工する工程です。

けが、発火、施設の故障の原因になるため次のものは入れられません。
⑤ 電気や電話(充電池・充電池)でなくとも、ライター、刀刃、注射器など

詳細は、3月後に配布するリーフレット「資源物とごみの分け方・出し方」でお知らせします。

問合せ先 川崎市多摩生活環境事業所 電話:044-266-5747 FAX:044-287-1840
川崎市環境局資源循環課 電話:044-200-2680 FAX:044-200-3923

チラシの全戸配布

その他、市政により、動画作成、SNS等様々な媒体で広報を実施

11月以降のリチウムイオン電池など充電式電池の収集について

開始月 令和7年11月

開始月 小物金属の日(月2回)

対象 家庭で使った**充電式電池**

(リチウムイオン電池、モバイルバッテリー等)

出し方

- ① 端子部に透明なテープを貼り、絶縁してください。
- ② 透明な袋に入れ、貼り紙をして資源物集積所に出してください。

※**膨張・変形**している充電式電池は

他の電池と分けて透明な袋に入れ貼り紙をして出してください。

※一番長いところが30cm以上のものは**粗大ごみ**へ(有料・申込制)



麻生区における廃棄物行政課題

○外国人によるごみ出しの問題

日本語が分からず、直接多言語の広報物を配布しても排出マナー向上につながらない。

ゴミ集積所の環境悪化につながる

○高齢者の増加によるふれあい収集の増加

毎年25世帯ずつ増加 現在241世帯が利用

○無料回収業者による資源物の榨取

無許可の収集運搬の注意にとどまる。

○粗大ごみ・小物金属等の資源物持ち去り

令和4年4月1日 持ち去り禁止条例

麻生警察署との情報共有

川崎市環境局多摩生活環境事業所

多摩区枡形 1-14-1 電話 044-933-4111

卓話をありがとうございました。



【四つのテスト】

鈴木憲治 会員

【閉会点鐘】

木村良三 会長

【会報委員会】 鈴木真一 委員長

写真: 鈴木豊成 委員



★本日の清掃活動は雨天のため、中止になりました。

〈米山月間 寄稿〉

「みんなで考えよう……米山記念奨学事業」

米山記念奨学事業は、日本の全ロータリークラブが支援する唯一の国際奉仕活動です

鈴木 憲治
(川崎麻生RC)

あるロータリアンの疑問!?

■「ロータリーは寄付団体ではない」と聞いて入会しました
■「R財団・米山記念奨学会へ寄付とは、話が違うのでは?」
この疑問に対しては!

■R財団・米山への寄付は、いわゆる寄付とは異なる。
■情報提供、ロータリーの理解不足。新会員に対して米山記念奨学事業の本質を説明することが重要。

※各クラブが**「多地区合同奉仕活動」**に賛意を表したためにこのプログラムを実践することである。

なぜ外国人留学生なの?

1952年、東京ロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉氏の功績を祈念して創設した**「米山基金」**が事業の始まりです。生前、私費でアジア諸国の留学生の支援をしていたこと、そして何より、戦後の“平和日本”を世界に伝え、国際親善と平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがありました。以来、日本全国のロータリークラブの共同事業として受け継がれ、現在も会費からの寄付金が事業を支えています。

留学生支援ひとすじ！「よねやまのあゆみ」

- 1952 米山梅吉氏を記念し、その遺志によりアジア諸国からの留学生を世話をするため、東京クラブに「[米山基金\(ファンド\)](#)」ができ、その後これを日本のロータリークラブに広げることになり、まず東日本のクラブ全会員が参加し、やがて西日本もそれにならう
- 1954 第1号奨学生ソムチャードさんがタイより来日
- 1957 新組織「国内全ロータリークラブの合同事業」になり「ロータリー米山奨学委員会」を結成
- 1967 「財団法人口ーターー米山記念奨学会」となる。年間奨学生 6ヶ国59人
- 2004 RI理事会で米山記念奨学事業 50 年の歴史が認められ称賛を受け、ロータリーの名前や [rotary-yoneyama](#) ドメインの使用許可となる。
- 2007 日本の全地区による『[多地区合同奉仕活動](#)』として手続きが完了。* 地区プログラムとなる。
- 2012 『[公益財団法人口ーターー米山記念奨学会](#)』へ移行する。
- 2016 ソウル国際大会に初めてのブース出展、分科会開催
- 2017 財団設立50周年を迎える。記念式典を2018年開催
- 2023 ベトナム南米山学友会設立/学友会は、台湾、中国、韓国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマーと10ヶ国となる。
- *[恩返し](#)：台湾・韓国では、日本人留学生に独自の奨学金制度を作り支援している。台湾2009年から累計61名、韓国2016年から累計50名を支援
- *コロナ禍や度々の災害時にいち早く多額の援助を頂いております。

■事業の使命

将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これはロータリーの目指す“[平和と国際理解の推進](#)”そのものです。

■日本独自の他地区合同奉仕活動

日本ロータリーの父米山梅吉氏の徳を祈念する事業として1952年東京ロータリークラブが始めた事業が、日本全国のRC共同事業として発展し、1967年に(財)ロータリー米山記念奨学会が設立されました。2004年11月にはRI理事会においてこの米山奨学事業が日本のロータリーにおける独自の『[他地区合同奉仕活動](#)』であることが新たに承認されました。

■民間最大の国際奨学事業

2025が九年度の奨学生数964人、2024-25年度寄付金収入13億3052万円です。事業費は15億9000万円(2024-25年度決算)と累計奨学生数は24,830人(2025年7月現在)、その出身国は134の国と地域に及びます。現在、日本における「助成等事業費上位100財団」

の中で毎年上位に入っています、特に外国からの留学生支援に限れば助成額第1位となっています。

■事業の要は、「世話クラブ・カウンセラー制度」だから他の奨学金とは違います！

奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブが「世話クラブ」となり、会員が「カウンセラー」となって、日常の相談役をつとめます。米山奨学生は世話クラブの例会や、クラブや地区の奉仕活動に参加し、ロータリアンとの交流を通じて、平和の心、奉仕の心を学びます。

■奨学金はこのように使われます。寄付金は、全額奨学事業に関することだけに使われ、管理費支出（米山記念奨学会：理事会・評議員会の費用や、管理部門事務局員の人物費等）は、資産の利子収入で賄っています。

■寄付の種類 奨学会への寄付は2種類です。

この事業は皆様からの毎年の寄付で運営されています。地区的奨学生数はほぼ寄付額で決まりますので、継続的な支援が支えとなっています。

普通寄付金とは・・安定財源として、クラブが決定した金額を会員数分、毎年半期ごとに収める。

特別寄付金とは・・個人・法人・クラブ・周年記念からの任意寄付。ロータリアン以外の方からも可能です。(少額分割方式も可能)

■米山記念奨学会への寄付金は、寄付金控除の対象です。2025-2026豆辞典P24-25を参照してください。

■重田政信RI理事：米山記念奨学事業の『平和のための人づくり』は、教育的プログラムの模範として、より重要性が増すと同時に、一層広い視野が求められることになります。この素晴らしい米山記念奨学事業をぜひ推進してくださいと述べられました。

[鈴木清次PG](#)：当地区は、毎年60%を超えるクラブに奨学生が配属され、その学生の姿がロータリアンに触れる機会が多いことが何よりの強みであります。地区大会やIMでの講演などに登場し、その優秀性をアピールしてロータリアンが身近に感じてもらうことにより“米山への支援の文化”が醸成されロータリアンの米山奨学事業への意識が変わっている。

